

学部留学生を対象とする言語文化〈日本語〉

村上京子

学部に在籍する留学生が大学で所定の単位を取得していくためには、講義を聴く、ノートをとる、ゼミで発表する、レポート・答案を書く、ディスカッションをするなど、高度な日本語運用能力が要求される。授業ではそのための訓練を行うとともに、日本人学生や教官とのコミュニケーション能力の育成や、日本社会・文化に対する理解を深めることを目的としている。

2006年度言語文化〔日本語〕の科目および受講者数は以下の通りであった。

期	対象	内容	時間	担当者	受講者数	コード
1期（1年前期）	文系	文章表現	月3限	秋山	14	11324
		口頭表現	木3限	西田	14	14324
	理系	文章表現	火2限	村上	1	12241
		口頭表現	木2限	魚住	1	14241
	工学（国）	口頭表現	月2限	西田	5	11258
		文章表現	水2限	魚住	5	13251
	工学（私）	文章表現	月2限	村上	11	11259
		口頭表現	水2限	鷺見	11	13252
2期（1年後期）	文系	文章表現	木3限	村上	14	24324
		口頭表現	金2限	秋山	14	25224
	理系	文章表現	火2限	村上	2	22240
		口頭表現	木2限	魚住	2	24240
	工学（国）	口頭表現	月2限	西田	5	21260
		文章表現	水1限	魚住	4	23137
	工学（私）	文章表現	月2限	秋山	13	21261
		口頭表現	水1限	鷺見	13	23138
3期（2年前期）	文系	文章表現	火1限	浮葉	7	32112
4期（2年後期）	文系	文章表現	木1限	浮葉	7	44112

クラス

文系：文学部・教育学部・法学部・経済学部・情報文化学部社会システム情報学科

理系：医学部・理学部・農学部・情報文化学部自然情報学科

工学（国）：工学部（国費留学生・政府派遣留学生）

工学（私）：工学部（私費留学生・日韓理工系留学生）

授業内容および反省

1年前期

文系・文章表現（11324）

読む力、書く力の練習。脱国家的な地球的問題群のひとつを共通テーマとして取り上げた。テーマについての理解を深める過程で読む練習、書く練習をする。最終目標は、共通テーマに基づくレポート作成にある。共通テーマは「グローバリゼーション」である。「市場原理主義」「グローバル・キャピタル」「グローバリ

ゼーションへの懸念」の各小テーマに関する資料を読むなかで読む力の養成を、そしてレポート作成作業のなかで書く力を養成した。教材は新聞、雑誌、VTRなど作成教材を用いた。

文系・口頭表現（14324）

口頭表現と文章表現の違いについて学習。その後、正確だけでなく分かりやすい発表を心がけるための重要なポイント（グルーピング、ラベリング、オーダ

リング等)を実際の発表練習を通じて学んだ。工夫としては、学生が興味をもって取り組めるように、発表練習のまとめとして、身近なもの(日々手にするレシートの記載事項)について考察し、グループで分担して発表するという活動を行った。またまとめとして、分かりやすく魅力的な発表を目指し、自らが授業時に観たいと思う映画について発表するという活動を行った。

理系・文章表現 (12241)

語彙を広げることと幅広い内容の文章を速読できる力をつけることを一つの目標とし、毎回推薦図書の中から選んだ本を持ち帰り、ノートを作って提出した。メール文、説明文、意見文などできるだけ実際に近い多岐にわたるタスクを用いて演習した。きめの細かい指導ができた。

理系・口頭表現 (14241)

聴解能力、論理的に話す能力を高めるため、ニュース・ドキュメンタリー等のビデオを用いて情報を取り、内容をまとめて伝達する練習とディスカッション、ポイントを整理して話す練習、口頭発表を行った。その他、ノートテキング、レジユメの書き方、大学生活での会話表現も練習した。教材は作成教材のほか『留学生のための大学の授業へのパスポート』(一部)を用いた。発表は授業中にフィードバックをしながら進めた。学生が意欲的だったため、ポイントを整理した話しかたが、よく定着した。

工学・口頭表現 (11258)

口頭表現と文章表現の違いについて「たのむ」という機能を通して、授業後に先生に口頭でたのむ場合と、メールでたのむ場合を比較した。その後、講義におけるのノートの取り方について学ぶとともに、それを応用して発表資料を作る練習をした。学生が興味を持って取り組めるように、発表練習のまとめとして、身近なもの(日々手にするレシートの記載事項)について考察し、グループで分担して発表するという活動を行った。

工学・文章表現 (13251)

読解能力や論理的な文章を書くための基礎力を養成するために、資料(新聞記事や日本語教材)の読解とともに、要約、意見、ポイントを整理して書く作文練習等を中心に行った。その他、文体、原稿用紙の書き方、句読点の打ち方、板書文字の読み方、レジユメの書き方、簡単な発表等も行った。工夫としては、授業や、発表した作文などの相互批評を通じて、ポイントを整理して書くことに少しずつ慣れるようにした。学生たちもそれを取り入れる努力をしていたと思う。非漢字圏の学生にとっては生の資料を自力で読むことは大変なため、今年度も、インターネットの読解支援システムの利用を奨励し、発表等で負担軽減を図った。

工学系・文章表現 (11259)

メール文・マニュアル文など実的な文章作成の演習とともに、レポート作成にあたって資料を多角的・批判的に読み、要点や問題点をまとめる練習を協働的な活動を通じておこなった。具体的には問題意識に応じて各自集めた資料をペアでお互いに質問しながらまとめ、さらに別のペアと情報交換をすることで、論点に適合した重要な部分を自分のことばで伝える練習をおこなった。

工学系・口頭表現 (13252)

インタビュー活動とブックレビューを中心的な活動とした。いずれの活動も、発表の方法・技能を身に付けることを第一の目的、教室外で日本人学生と話す機会を増やすことを第二の目的とし、教室での活動を教室外活動のための準備と教室外活動に基づく発表と位置づけた。工夫・反省としては、インタビュー活動に関しては、学生間で関心のあるテーマや活動に対する動機付けの違いが顕著となり、学生それぞれが欲求不満を残して終わる形となってしまった。

1年後期

文系・文章表現 (24324)

読む力、書く力の練習。脱国家的な地球的問題群のひとつを共通テーマとして取り上げた。テーマについての理解を深める過程で読む練習、書く練習をした。最終目標は、共通テーマに基づくレポート作成にある。共通テーマは「格差と成果主義」である。「戦後日本社会の富裕層」「現代日本社会の格差」「成果主義

の各小テーマに関する資料を読むなかで読む力の養成を、そしてレポート作成作業のなかで書く力を養成した。

教材：作成教材（新聞、雑誌、VTR）

文系・口頭表現（25224）

ロールプレイ・ディベートを中心に授業を進めた。毎回ビデオ録画し、フィードバックに用いた。ディベートでは、学習者はテーマについて事前に調べ意見をまとめて授業に出席することが求められた。9のテーマについて活発なディベートが行われ、回を追うごとに学習者の表現や意見の述べ方が上達していった。特に順番に担当した審判の経験が、次の討論者になった際の意見の述べ方により効果をもたらした。

理系・文章表現（22240）

レポートの書き方に関するタスク練習を行った後、生物学に関する最近の傾向を表したいいくつか文章を読み、レポートのテーマを決めた。問題意識を明確にし、アウトラインを作成した後、インターネットを使って資料を収集し、資料の質や関連性などの検討を行った。数度の書き直し作業を繰り返しながら、できるだけ完成度の高いレポートを作成した。レポート全体の構成や文章の推敲など繰り返す中で、自分の力で次第に論旨の明確な筋の通ったレポートに仕上げることができ、多くの資料を読むのはたいへんだったが、達成感はあったと学習者自身振り返っている。

理系・口頭表現（24240）魚住

前期に引き続き、前期よりは長めのニュース・ドキュメンタリー・科学番組等のビデオの視聴とディスカッション、ポイントを整理した話し方、討論、ディベート、口頭発表を行った。その他、映画の視聴も行った。前期に比べ、学生の聴解力や明確さがより向上したと思う。人数の関係で討論やディベートはやりにくかったが、ポイントを整理した話し方は生かされていた。ディベートでは相手をしてくれた日本人学生よりはるかに論旨が明確で説得力があった。人数が少ないとどうしても発表回数が多くなってしまふ。回数の調整は課題として残る。しかし、学生は意欲的で、その甲斐あって、発表にはすっかり慣れたようであった。

教材：作成教材。参考教材として『日本語 口頭発表と討論の技術』

工学系・口頭表現（21260）

前期の授業を受けて、発表する力をさらに伸ばす方法を学んだ。特に、正確だけでなく、分かりやすい発表を心がけるための重要なポイント（グルーピング、ラベリング、オーダリング等）を実際の発表練習を通じて学んだ。口頭表現能力の向上という観点から、分かりやすさの妨げとなる表現の「あいまいさ」について言語学的な観点から知り、それを避ける方法を考えた。また、まとめとして、分かりやすく魅力的な発表を目指し、自らが授業時に観たいと思う映画について発表するというを行った。

工学系・文章表現（23137）

各自がインターネットで選んだ新聞記事の読解と発表（読解支援システムを利用）、および数種のデータだけを見て内容を整理して行う発表を行った。また、レポートの書き方および図表の説明の仕方、引用の仕方、参考文献の書き方などについて学び、各自自由なテーマでレポートの作成を行った。取り組み方に個人差はあったものの、各種の発表や相互批評を通じて、互いに学び合えたのではないかと思う。今期は、発表やレポートなどでの資料の文の丸写しを避けるため、数種のデータだけを用意し、そこから内容を読み取ってポイントを整理して発表するという試みをしたが、発表準備段階でのTAの助けもあり、一応意図した活動はできた。しかし、課題も残る。やり方を工夫し、来年度も続けたい。

教材：作成教材。参考教材として『研究発表の方法』『論理的な文章の書き方』

工学系・文章表現（21261）

読む力、書く力の練習。脱国家的な地球的問題群のひとつを共通テーマとして取り上げる。テーマについての理解を深める過程で読む練習、書く練習をする。最終目標は、共通テーマに基づくレポート作成にある。共通テーマは「グローバリゼーション」である。「市場原理主義」「グローバル・キャピタル」「グローバリゼーションへの懸念」の各小テーマに関する資料を読むなかで読む力の養成を、そしてレポート作成作業のなかで書く力を養成をする。

教材：作成教材（新聞、雑誌、VTR）

工学系・口頭表現 (23138)

発音練習とディベートを中心的な活動とした。それぞれの活動において、自分の問題点の意識化を促すことを大きな目的とし、「自己評価と他者評価」を繰り返した。また、川柳や回文を取り入れ、類音語や多義語、音への関心を高めた。授業外での意識的日本語学習を促すための工夫として、まず、学期の最初に、「授業外で日本語力を延ばすための努力をしているか」を自己評価させるとともに、「日本語力を延ばすための決めごと」を3つ書かせた。そして、毎週授業の開始時に、各決めごとを実行したかどうかを自己評価させた。教材は、『日本語の発音教室 理論と練習』（田中真一・窪園晴夫、くろしお出版）の一部、『日本語口頭発表と討論の技術 コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために』（東海大学留学生センター高等発表教材研究会編、東海大学出版会）の一部および作成教材。

2年前期

文系・文章表現 (32112)

日本社会・日本文化に関する文献等を読み理解を深めるとともに、レポートや卒業論文に必要な論理的な文章の書き方を学んだ。ニート問題をテーマに、アウトラインと序文を作成した。

教材：戸田山和久『論文の教室—レポートから卒論まで』日本放送出版協会

工夫・反省としては、読解教材を補完するビデオ教材を作成し、学生の興味を引きつけようとした。TAの協力を得て、E-mailで学生が提出する感想文や発表のレジュメを添削した。レジュメとレポートの作成には、あらかじめ教員が模範となるものを示した。しかし、1限目のせいか、遅刻・欠席する学生が多く、授業の連続性を維持するのが難しかった。

2年後期

文系・文章表現 (44112)

2年前期で学んだ内容をふまえ、より高度な読解力・文章表現力の向上をめざした。要約と引用の方法を中心に学び、本の内容を紹介するレポートを作成した。教材：平野啓一郎『本の読み方—スローリーディングの実践』PHPほか。

工夫・反省など：本を紹介するという課題を出したところ、漫画や短い小説以外読んだことがないという反応だったので、ここ数年話題になった新書を10冊ほど提示して選んでもらった。ただ、読解力の低い学生ほど難しいものを選ぶ傾向があり、十分に読みこなせない場合もあった。また、内容がやさしくても、逆に要約やコメントの難しい本もあり、教材の選択に注意が必要であることが分かった。

授業アンケートの結果

例年のように、授業終了時に行われたアンケート結果では、ほぼ全項目において全学でトップの評価が得られた。主な項目を下に示す。(①：あてはまる、②：ややあてはまる、③：あまりあてはまらない、④：あてはまらない、⑤：無回答)

- ・あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか
①68.3% ②26.4% ③4.8% ④0%
- ・教員の熱意は感じられましたか
①68.3% ②23.8% ③4.8% ④0%
- ・シラバスにある学習の目標を達成できましたか
①42.9% ②49.2% ③6.3% ④0%
- ・総合的に見て授業に満足しましたか
①61.9% ②28.6% ③6.3% ④0%